

自由に参加できます！

第31回明大昆虫セミナー

Pest status and prospects for biological control of
Halyomorpha halys in the USA

アメリカ合衆国におけるクサギカメムシを対象とした生物的防除の現状と展望

Dr Kim Hoelmer & Dr Christine Dieckhoff

United States Department of Agriculture, Agricultural Research Service

アメリカ合衆国農務省・農業調査局

日時：2015年7月14日（火）16:30～18:00頃

会場：明治大学生田キャンパス 中央校舎 0310 教室

クサギカメムシは日本でも果樹類や野菜類を加害する農業害虫であり、さらには冬期に住居等へと侵入する不快害虫としても重要です。同種は2001年にアメリカ合衆国・ペンシルベニア州へと侵入し、現在は42の州で分布が確認され、少なくとも13の州では農業害虫および不快害虫として大きな問題となっています。土着の天敵では寄生の成功が非常に低かったため、2007年以降、アメリカ合衆国政府はアジアにおける有望な卵寄生蜂であるニホンクロタマゴバチ *Trissolcus japonicus* を導入し、その永続的な密度抑制効果を期待する『伝統的生物的防除』の実施へ向け、同種の有効性や生態系への影響を評価する種特異性に関する調査を行っています。ニホンクロタマゴバチはクサギカメムシの他にチャバネアオカメムシにも寄生することが知られていますが、実は、最近になって同種の主要な宿主がツヤアオカメムシであることを当研究室が明らかにしました。今回のセミナーでは、アメリカ合衆国で進められているプロジェクトの現状と今後の展望を紹介して頂きます。奮ってご参加下さい。

問い合わせ：農学部 応用昆虫学研究室 糸山 享